



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/12/20
SDS整理番号 01238130

製品等のコード : 0123-8130

製品等の名称 : 1-ナフチルアミン (1-ナフチルアミン)

推奨用途 : 試薬

参考 : その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
合成中間体 (1-ナフトール、 1-ナフチルアミンスルホン酸塩、アゾ系染料)、
媒染剤、ゴム薬品 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分4
急性毒性 (経皮) : 区分3
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分2 (血液)

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害 (経口)
皮膚に接触すると有毒 (経皮)
眼刺激
血液の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

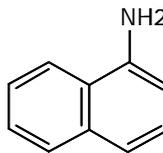
皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。

眼に入った場合 : 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。



眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】
日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施設して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名	: 1-ナフチルアミン (別名) - ナフチルアミン、アルファ-ナフチルアミン、 1-アミノナフタリン、ナフタレン-1-アミン、 1-ナフタレンアミン (英名) 1-Naphthylamine (TSCA名称)、 -Naphthylamine、 1-Aminonaphthalene、Naphthalen-1-amine、 1-Naphthalenamine、1-naphthylamine
成分及び含有量	: 1-ナフチルアミン、 99.0%以上
化学式及び構造式	: C10H9N、 C10H7NH2、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 143.19
官報公示整理番号	: (4)-321
化審法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	: 134-32-7
EC No.	: 205-138-7
危険有害物質	: 1-ナフチルアミン

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で助け目を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診察を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:	
吸入	: 紫色(チアノ-ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ-ゼ)の皮膚、 錯乱、めまい、頭痛、息切れ、脱力感
皮膚に付着	: 吸収される可能性あり。 発赤 他の症状については「吸入」参照。
眼に付着	: 発赤、痛み
経口摂取	: 紫色(チアノ-ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ-ゼ)の皮膚、 めまい、頭痛、吐き気

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本製品は可燃性である。 粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	: 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため)
特有の危険有害性	: 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。 加熱により容器が爆発することがある。 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

- 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、
 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
 回収、中和 : 裸火禁止。
 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気 : 作業場には囲い式フードの局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を
 設置する。
 密閉された装置、機器又は局所排気を使用しなければ取扱ってはなら
 ない。
- 安全取扱い注意事項 : 裸火禁止。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
 乾燥した場所に保管する。
 容器を密閉して冷暗所に保管する。
 必要に応じ施錠して保管する。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 未設定
 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) :
 日本産衛学会 : 未設定
 ACGIH : 未設定
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
 する。
 作業場には囲い式フードの局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を
 設置する。
- 保護具
 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク、有機ガス用防毒マスク)を着用する。
 手の保護具 : 保護手袋を着用する。
 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用
 する。
 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。

- 衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶粉末
色	: 白～うすい紅色 空气中で徐々に着色し、紅赤色又は褐色となる。
臭い	: 特異臭（不快臭）
pH	: データなし（pKa=10.0、 pKa=3.92（25℃））
融点	: 49～51
凝固点	: データなし
沸点	: 300.8（昇華）
引火点	: 157
可燃性	: 可燃性
爆発限界（空气中）	: データなし
蒸気圧	: 0.53 Pa（20℃）
相対ガス密度（空気 = 1）	: 4.93
密度又は相対密度	: 1.12 g/cm ³
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶けにくい（0.17%、25℃）。 酢酸に溶ける。 アルコール、ベンゼン、エーテルに易溶。
オクタノール/水分分配係数	: log Pow = 2.25
発火点	: 460
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: UNRTDG クラス6.1に分類されていることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 発火点は460℃であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: UNRTDG クラス6.1に分類されていることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）	: 空気、光、水分に暴露すると変色（紅赤色～褐色）する。 高温の表面、火花または裸火により発火。 火災または強く熱される場合（たとえば周辺火災または高温の表面により）分解が起こり、有毒で腐食性の窒素酸化物ガスや一酸化炭素が生じる。
危険有害反応可能性	: 酸素に富む物質（強酸化剤）と接触する場合、激しい反応が起こって、主として酸化窒素（窒素酸化物ガス）からなる猛毒の気体が生じる。
避けるべき条件	: 高熱、日光、光、湿気、空気
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 加熱や燃焼により、有害な二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 680mg/kg (HSDB (2005)) 飲み込むと有害（経口）（区分4） 経皮 ラット LD50 = 447mg/kg (HSDB (2005)) 皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3） 吸入（蒸気） 分類できない。 吸入（粉じん） 分類できない。 ラット LC50 > 0.056mg/L/4H (HSDB (2005))
皮膚腐食性/刺激性	: 区分に該当しない。 ヒトへの短期ばく露の影響として皮膚を軽度刺激する可能性が示唆されているが、症例報告はない（ICSC (J) (2000), HSDB (2005), HSF5 (2004)）。 ウサギを用いた試験で刺激性が認められない（HSDB (2005)）。 以上の報告から、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性	: 眼刺激性：ウサギを用いた試験で軽度な刺激性が認められたとの記述（HSDB (2005), IUCLID (2000)）より、区分2Bとした。 眼刺激（区分2B）
呼吸器感作性	: 分類できない。

皮膚感作性	: 分類できない。 モルモットを用いたMaximization testでsensitizingとの報告があるが、感作された動物の比率が示されていない (IUCLID (2000))。動物では感作性は認められていない (ACGIH (2003), DFGOT (1998), GHS分類結果 (住化技術情報センター))。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。 マウスを用いた in vivo 小核試験で陰性 (IUCLID (2000))。 細菌を用いた復帰突然変異試験で陽性 (IUCLID (2000))。
発がん性	: 区分に該当しない。 IARCは グループ3 (ヒト発がん性に分類できない物質) に分類されている。
生殖毒性 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない。 PATY (4th, 1994) にイヌで200mg/kg強制経口投与によりメトヘモグロビンを生成するとの記述があり、ヒトでは、具体的な症例報告等の引用はないが、Priority 2 の出典 (HSDB(2005)、ICSC(J)(2000)、HSFS (2004)、SITTIG (4th, 2002)) にメトヘモグロビン血症を起こすことがあるとの記述から、血液が標的臓器と考えられ、区分 2 とした。 血液の障害のおそれ (区分 2)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない。
誤えん有害性	: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性)	: 分類できない。
残留性・分解性	: 難分解性。BOD分解度 = 0%
生物蓄積性	: 低濃縮性。コイ 13~54倍 (200 g / L) コイ 9.1~27倍 (20 g / L)
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) 燃焼法 可燃性溶剤に溶かし、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)	
UN No.	: 2077
Proper Shipping Name	: alpha-NAPHTHYLAMINE
Class	: 6.1 (毒物)
Sub Risk	: -
Packing Group	: III
Marine Pollutant	: No (非該当)
Limited Quantity	: 5kg
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)	
UN No.	: 2077
Proper Shipping Name	: alpha-Naphthylamine
Class	: 6.1
Sub Risk	: -
Packing Group	: III

国内規制

陸上規制情報 (特段の規制なし)
海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2077
品名 : アルファナフチルアミン
クラス : 6.1
副次危険 : -
容器等級 : III
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当

少量危険物許容量 : 5kg
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2077
品名 : アルファナフチルアミン
クラス : 6.1
副次危険 : -
等級 : III

少量輸送許容量物件

許容量 : 10kg

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 製造の許可を受けるべき有害物
(政令番号 第1号の2「アルファ - ナフチルアミン及びその塩」、
対象重量%は > 1)
(政令第17条 別表第3)
名称等を通ずべき危険物及び有害物
(政令番号 第1号の2「アルファ - ナフチルアミン及びその塩」、
対象重量%は 1)
名称等を表示すべき危険物及び有害物
(政令番号 第1号の2「アルファ - ナフチルアミン及びその塩」、
対象重量%は 1)
(政令第17条 別表第3)
特定化学物質等 第1類物質
(特定化学物質障害予防規則)

消防法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
化学物質排出把握管理促進法 (P R T R 法) : 非該当 (2023年 (R5年) 4月1日施行にも非該当)
船舶安全法 : 毒物類 (危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法 : 毒物類・毒物 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
HSコード : 2921.45
第29類 有機化学品
・輸出統計番号 (2023年4月版) : 2921.45-000
「アミン官能化合物
- 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩 : 1-ナフチル
アミン (アルファ-ナフチルアミン) 及び2-ナフチルアミン
(ベータ-ナフチルアミン) 並びにこれらの誘導体並びにこれらの塩」
・輸入統計番号 (2023年4月1日版) : 2921.45-000
「アミン官能化合物
- 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩 : 1-ナフチル
アミン (アルファ-ナフチルアミン) 及び2-ナフチルアミン
(ベータ-ナフチルアミン) 並びにこれらの誘導体並びにこれらの塩」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 : 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社 (2007)
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編

化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。